

自明治廿五年

六月同月

日記

信天翁新田

俊純筆記

六十四年

P-57

新田

○明治廿五年六月小

○一日月曜是天也

前十時迄一雨降也

午後一旦山晴乃有取貫

江乃降心降乃雨也

相より不

○此左子あり井上

ハ、  
之十楊也、太十、

○、  
之十楊也、太十、

○、  
之十楊也、太十、

○、  
之十楊也、太十、

○、  
之十楊也、太十、







○三日朝卯4時  
下分俯北大地  
雲層  
宜烈雨也  
十分得

○ 惟 未 生 地 何 是 也  
力 一 帶 一 帶 東 至 西 航  
和 之 方 有 心 ○ 山 年 大  
新 寸 七 取 也 ○  
○ 四 日 朝 東 十 時 乃 子 江

文雅堂製

一 抄本ニある  
 中

○悔ふる者なり  
小不事而や○池田先  
生も4比るう見り  
○之をわが家に来り  
かめゆも4赤坂氷川社  
社に繋り小兒共に見  
ぬる中より4は侮  
子思ふより供ふ  
○伊藤松平も4○夜  
ニナ悔ふも4



○夕乃極年方一將

走ころる所をさす十回

るる也○

○五曰是も天や地

之也○

月の中も也

○情今も心多し也

○古より心多し○是物

いふは能くも心多し

○少年より心多し二回返

○心は是も心多し

文雅堂製

日光ヲ照入月ノ中ニ

也

○井上ノ心多し也

心多し也

○情多し也○井上ノ

心多し也

○七曰是も天や地

日光ヲ照入中ニ

日光ヲ照入中ニ

日光ヲ照入中ニ



○井上ノ一ノ所ニ  
祝ヒテ相立耶一  
ヲおとこ子候ニ  
○○予ノ子ヲ九  
時迄都系都立ニ  
去月廿四日ニ社ニ  
母ノおとこニ  
井上ノ一ノ所ニ  
初ニ一ノ所ニ  
一ノ所ニ  
一ノ所ニ

有る一ノ所ニ  
西月ノ一ノ所ニ  
家ノ一ノ所ニ  
おとこニ  
や○  
○八日  
○三ノ所ニ  
一ノ所ニ

○池ノ一ノ所ニ



之○夕方想之長  
女同田之收乞家世  
能今有下女月原之  
○美哉金殿  
日想金殿則取  
百五廿二冊之錄以  
るや○毛札にお  
姪さのり  
○九日雨之也  
雨之也

○かきわの山所  
○新婦亡母之墓  
ふ井上之墓  
日中へ下王使の  
るり子之墓  
○井上之墓  
花名帳に不仕家件  
取之録  
○雪道老入るる  
本る録  
○畑色更清池  
りより格下



○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日

○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日

○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日

○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日  
○十日

文雅堂製

○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日

○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日  
○十一日



此不費共廿七系拂  
○予く身く一衣  
ナニ交腸痛水浮の  
る又治るある○  
○十二日朝中時るや  
子后くくち、受氣  
候時、多むくまふ  
く共給る時也  
○丁巳の予中時味  
あふく甘ずぬき  
○将井くく肉ひ  
くくくくくくく

のうくくくくく  
○予朝中二ふ下痢  
ち、瘧疾くくく  
一、ふ過く是くく  
子也子后くく  
ゆふふ○  
○十三日晨王也  
日芝、現くく  
也

○予中時  
ゆ也○湯之○予中  
くくくくく



一  
 非明子通入求  
 物  
 同本五時通如

通子子子子子

方寸通玄言百体是

丙子年十一月十三日

○夜池田先生

米  
各  
と  
〇  
ゆ  
し

信ニテ井ノ下ノ由

井中作木浮橋

新編 古今 事類 彙編

方  
リ  
シ  
テ  
、  
之  
一  
内  
ス

○十月廿六日

割面之者此十餘年

成十時也心水雲地

可勝工學士之

日星王如

○井ノ口 吹雪石

平下五〇梅五

西府生柏

牙子化十零也

○山本久新子書也

○博身氏并上

子之不悅見



わ○山本はまゝ  
夏に聞ち○傳子  
吾子毎中  
小腰の事  
あり某  
るる  
○北川  
兵  
り  
○夜  
先  
○お

文雅堂製

いああむ  
る  
○田  
一  
月○  
○十五  
い  
も  
○井  
○  
う



[illegible]

○切通し只所  
十女一人と申4月迄  
ら○夕呼喚し  
井上 おいてる 人  
りし書し菜子也わ  
よりた外也同申4月迄  
人 おいてる 田也○  
○十七日雨天や午寄  
し四日雨の多き  
也



○田島そふく印  
 七〇左朝鮮之山  
 岩松花のし印  
 月娘あつてう摩  
 山方、月下、う  
 斗う〇うのう  
 〇月〇う  
 〇山平五新う  
 〇井上う  
 月々、山松、う  
 月々、山松、う

○十八日雨を降す

[illegible]



心ありしは改め初名を改め  
○その日午三時より四  
井よりくくくくくく  
小田の4つを改め  
初め○上より下へ大  
井へ巻く雛大田  
之より：子より下へ  
改め4天井ハカ  
所を改めくくく  
一羽に下へ雛をくく  
○十九日大雨天也  
子兵ハ十時より夕方

心

○町内は大雨井へ  
リナリハ雨の4つ  
○その日午後くくく  
第一冊内より  
○戊辰年池谷を物  
後編よりくくく保  
全負林より秀川細川  
ホくくくくくく  
○目よりくくく  
くくくくくく山本















米子人也。性也  
有同輔之。生語是  
此方曰。是三十一時。  
山東。一。北。上。  
學。校。女。科。三。院。  
〇

○廿四日 爲 馬 是 三  
先 時 一 部 也 函 三 收  
時 一 二 三 一 時 一 也  
時 一 時 一 也

文雅堂製

○高上制生金  
日令名之書有之哉  
○予頃來讀之知此  
朝之有之也  
○書此信局學務課  
元美所記也予持入  
學不以由方之者  
也即之也○新由山  
本家之井上之  
中平幸之也











○つりくさくさくす  
七なり○傍子ふふ  
牛丘くく○四ノ二ふ  
く五なりくまゆや  
○廿九日朝中ふおる  
ふや牛丘くく時ふふ  
みおるくくふふふ  
ふやふふふふふふ  
○傍子ふふふふふ  
ふや○つりくくく  
ふふ朝ふふふふ  
ふふふふふふ○ふふ

ふふふふ○つりく  
ふふふふ○  
○廿日晴ふふふ  
ふふふふふふふ  
○川口老ふふふ  
ふ○ふふふふふ  
ふふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
○ふふふふふふ  
ふふふふふふふ  
○ふふふふふふ







千夜井上揚る所まほ  
山くく回るる也  
○二日朝早く妙明の  
所の也時力也

○大抵也（可也）  
くく土記も云くく  
れり（或る）相ふた如  
あけくくあり（或る）  
○傍子今くく所登  
くく也○くくもくく

解けく初くく也  
○くくく未安風不  
くく休くく不（或る）○くく  
くくくくく○井上  
おすくくく新くく  
くくくくくくく  
くくくくく○  
○二日朝早く名くく  
くくくくくくく  
くくくくくくく  
くくくくくくく

路の中もくくくく







はなと来ッ田 ○チカ  
予非ヲ覺レ○

○五日村長王也子  
丘一 為知ニテ時  
より阿 日中も 也 なる  
白味ヲ催

○傍子先 傍子也 也  
○池田芝草 4 ○傍  
色ヲ供帝釋王御  
手也 也 植 也 也  
也や ○山 也 也 也 也

○六日村長王也子  
子丘一 為知ニテ時  
明のニよる 也 也  
分也 也 也 也

○村 也 也 也  
井 也 也 也 也  
上 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也  
也 也 也 也 也



のりし習ふ花葉の形  
さきさきさきさきさきさき  
○七日壬午、何し是日  
やとて晴るる日也  
暑き日路の晴る也  
○傍子とて世に○子  
日也や○松子に  
半子とて世に  
子とて世に松井  
子とて世に松井  
子とて世に松井  
子とて世に松井

かこ島瀬も、  
○夕六時にそ  
○夜は左井上  
○八日甲子、  
とて晴る、  
何とて晴る、  
也

○予今、  
○長崎、  
○松井、  
子とて世に松井







○早天をち果て  
ち即ち和を以て  
院を修繕せし  
う尸成○博井上  
く下重納り  
○まさちを絶  
本○其に精なる  
往後事多し  
日見ふに強納  
いふ尸成○博  
マ方子○  
用あり納り  
文雅堂製

○子なるに  
と取れ少く  
氣を不  
○十下朝来  
白吟し  
月人

○井上  
○山本  
送○  
○梅井  
有ハ  
位階







知越者之有之也  
 一也家系之有之也  
 二也之有之也  
 三也之有之也  
 四也之有之也  
 五也之有之也  
 六也之有之也  
 七也之有之也  
 八也之有之也  
 九也之有之也  
 十也之有之也

○十二日晴。午二時  
依此。子三時。西。午。二。時。晴。

[illegible]







[illegible]

病病ニ至スルカ  
由也○

○十五曰晴時、晴るる  
十六曰午正一時、  
初の雪に二時、比、雪、雨  
な、ち、あ、や、三、時、  
よ、く、是、を、

○博愛社へむき  
まゐりし  
りふきせんとく  
しるす



[illegible]

○十一月四日 星王  
午正一時 日老現  
東方林木中 五色  
方 像此氣像

○子丸  
橙毛  
成五井上  
む一  
○山

西にるゝの〇橋  
 七<sup>年</sup>~~月~~ ~~日~~ 吉野松原  
 長女おりの存嬌  
 みま調子しるす  
 りな松平を〇七カ  
 古つもの4小こしらへ  
 〇並ねるか金ふり  
 公記書き母はさる  
 越え〇  
 〇ナセむ時方何日晴  
 や今も中ニ未だ  
 冬あり



○湯を予甘きなり  
ナ湯ス○安しきなり  
予を推懐する様  
○畑迄は用ニ外に  
佐助よりなり  
ナニナ古野に子あり  
ナニナナナナナ  
○ナニナナナナ  
ナニナナナナナ  
ナニナナナナナ

○楊子より  
ナニナナナナ  
○佐助より  
ナニナナナナ  
ナニナナナナ  
ナニナナナナ  
ナニナナナナ  
ナニナナナナ  
○ナニナナナナ  
ナニナナナナ







塙トツナヒサシ  
カ、子成ルヤ否  
臣、早由也○  
母子先快方、田未平  
阻、○小兒其トモ  
下、趣、今、あふん  
おも快由也○  
一、柱角、おれ  
に、ある、何、ア○  
○廿一日晴、ちか  
月、時、夜、  
左、右、ち、

○子とて田の字に○を  
あしは外に○を  
たふしめぬ也○又  
わたりちゝま腰痛石  
と云ふも由也○あま  
る様○老若にや  
は水を井戸替へ  
る様○井にお  
するも△と記す  
○古の字○ある  
へそなわち○  
○廿二日星王也



芝現、前九時、  
西の山と南風吹  
ひ、熱い日の中、

○井上郎官の者

お子持、  
おき、おき

○平子九時、

宮内、天候、

よし、

い、

す、

す、

す、

井上、

○

○廿三日、

あ、

あ、

あ、

あ、

○

あ、

あ、

あ、

あ、



○陸奥町保勅二宮成虎  
新地陸奥町之...  
ある...  
○陸奥町保勅二宮成虎

○廿四日...  
七時...  
二...  
...  
...

○廿五日...  
...  
...

...  
...  
...

○廿五日...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

○廿五日...  
...

...  
...



一、  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

○七月（癸卯）張子と志  
日（月）は清く貌力に清  
水立（研）ふりてつれ  
前（ハ）所迄いゝといふ  
りたる間（ハ）〇悦み全  
しり午まゝ間（ハ）〇半  
取小なる中（ハ）〇湯立  
〇小兒共ありこゝか  
全知はナ湯ス〇  
〇廿七日朔本村是  
王や先時より都也  
此の時より大なる時







所風都相世並排之  
○朝月玉西中○朝月  
池月之  
○相于  
位正  
我  
四  
依  
情  
○廿九日  
晴

神作西丁

○朝月玉西中○朝月  
池月之  
○相于  
位正  
我  
四  
依  
情  
○廿九日  
晴







○昨夕印も池田生  
生松浦一節書  
是年4月7日幹子撰  
善子に傳へて一因に人語  
某氏撰善子に伝へて  
田子に伝へて是より四  
乙子に伝へて是より  
丙子に伝へて是より  
丁子に伝へて是より  
戊子に伝へて是より  
己子に伝へて是より  
庚子に伝へて是より  
辛子に伝へて是より  
壬子に伝へて是より  
癸子に伝へて是より

左に同じく4行あり  
 〇世一曰  
 朝日4時より  
 十二時  
 五時  
 〇











○三日早に易を王也  
とて時方路の時方也  
夕方後、西向ふとて、山  
西、時方也

○予、今、六生也

○予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

朝、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

○予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水

、予、今、六生也、水











○お八幡の松をすま  
井上平之下一行作在  
向ふてゆふふりおと  
○川口也者ゝゝを休  
ラ以テハ高冠廣衣  
けふふりゝと晴中  
ミキリゴースニ作るを  
○松手た如大ゝゝ回を  
るゝ哉松はた純子也  
為松のゝゝの四章や  
○作金録寓ゝゝゝ  
耶とふ反中4作の松

子著し由なり○あり  
 回きし梅軒と和返す  
 ○中夜かきふらけり  
 新すに及ぶと云ふ○秋  
 西に久保通くす物なり  
 ○八日村墨書すや朝来  
 成れし詠にきく時なり  
 半日人々習ふや夜  
 並書す

○解爲字作白詢本  
之曰月有從一者有衆  
王字新增○明四音







新田825

自明治廿五年  
六月至同月  
日記

信天翁新田  
俊純筆記

六十四年